

2021年7月9日

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「2020年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員

<委員長>

- ・橋本 浩 (ホテルメトロポリタン秋田 総支配人)

<外部委員>

- ・菅原 恵悦 (一般社団法人 秋田県情報産業協会 理事・副会長、株式会社アキタシステムマネジメント 取締役)
- ・吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)
- ・浅野 雅彦 (秋田商工会議所 事務局長)
- ・石田 雄哉 (秋田市立秋田商業高等学校 教諭)
- ・畠山 昭広 (秋田県医師会 事務局長)

<学校側>

- ・小林 聖敬 (副理事長)
- ・小野 巧 (校長)
- ・小玉 拓子 (事務長)
- ・小杉 咲子 (学生部 部長)
- ・米谷 久志 (教務部 部長、高度職業実践科 主任)
- ・藤井 孝太郎 (教務部 副部長、情報システム科 主任)
- ・大石 卓司 (ビジネスマネジメント科 主任)
- ・舘岡 美紀 (医療事務科 主任)
- ・菊池 仁 (ホスピタリティマネジメント科 主任)

学校関係者評価委員会

日時：2021年6月16日（水） 17:15～17:55

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

1. 学校からの配布資料

- (1) 専修学校における学校評価ガイドライン（一部抜粋）
- (2) 2020年度自己評価報告書

2. 学校からの主な説明

(1) 学校評価について

① 学校評価の目的

学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進のため。

② 学校評価の定義

- ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
- ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

(2) 外部アンケートの実施について

学生を対象に、2020年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。

(3) 自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

3. 委員からの主なコメント、質問及び回答

(1) 評価項目「(5)-1 就職率の向上が図られているか」

質問：面接でのコミュニケーションスキルを上げるために、どのような取り組みを行っているか。

回答：①緊張している中で受け答えが出来るように、年度末に進級面接を行っており、普段授業などで関わりのない先生が面接を担当している。

②電話対応コンクールに挑戦している学科もある。現在、校内で全学科が取り組んでおり、学内コンクールの実施を予定している。

(2) 評価項目「(6)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

質問：今、学校が抱えている課題は何か。県内就職率の向上なのか、学生数を増やすことなのか。

回答：①学生募集では目標人数を掲げ、学生数増に取り組んでいる。

②学力向上のため、高難度の資格取得率を高める方法として入学前学習、入学後は各科授業の最初に基礎的な学習に取り組んでいる。

(3) 評価項目「(6)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

質問：卒業生の活躍が、あまり知られていないのではないか。

回答：学習活動動画を学生が作成中であるが、今後は卒業生の動画も作成していきたいと考えている。

(4) 評価項目「(8)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」

質問：学生本人の希望も大切だが、親の意見も得られることが大事だと思うがどうか。

回答：①コロナ禍で親にアピールする手段としては、テレビや紙媒体で伝える事が一番有効であると思われる。

②様々な賞の受賞や模擬披露宴などがあつた時には、テレビ・新聞各社に投げ込みをして、アピールを行っている。

以上